（第三種郵便物認可）　（本號六面）　（日曜日休刊）　（定價金二錢）

時事新報

第千四百二十四號　木曜日
明治十九年十一月四日（戊、戌）
舊丙戌十月九日
日出午前六時二十六分　日入午後五時一分
月出午後一時零五分　月入
滿潮午前十時五十二分　午後十一時二十三分
（西曆一千八百八十六年）

時事新報定價（明治十九年十月一日改正）
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月廿六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四字詰　日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至三十行	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

相場所の改革は機密を要す

相場所の動搖を鎭靜するが爲め先づ一度び其原因たる風聞の根本と斷つ可しとは大意は前號の紙上に之を記したり抑も今度の動搖は共同相場會所の設立あらんとの風聞早くも民間に傳播し且その設立案も單に民間の作に非ず政府の筋に於て既に議を決して二三四五の商人は其辞聞に預りしあど樣々の言を洩れ聞きまて其言の尾に尾を附け殆んど世に隱れもなき大評判と爲りて遂に人氣と擾亂したるみとなり竊に案ずるに政府が今回相場所の改革を議したるや否やの信僞は我輩の固より知らざる所なれども從前の相場所の不完全にまて改革を要するの事實と政府が常に社會の進歩と悅ぶの熱心とに訴へて之を考ふれば此改革議れ起り之れ或は相違もなきとならんと信ぜざるを得ず我輩の甚だ贊成する所にして一日も速に着手を冀望すと雖ども唯遺憾なるは其風聞れ早くも民間に流傳したるが爲め先に今回は如何にしても直に實施を可らざるの一事あり其次第と述んに今政府より株式取引所幷に米商會所に向て直に其營業を止る歟又は今後營業の繼續は叶ふ可らずと申渡す時は兩所株式の價も地に落ちて株主等の損害は非常ある可ければ商賣社會の安寧を重んずる政府に於ても固より行ふ可き事柄に非ず左れば政府は至公至平今度新設す可き共同相場會所をして時の價格を以て兩所の株式と買取り舊相場所の跡を絕て新相場所を起さしむるの方案に從はん歟、甚だ公平なるに似たれども彼株式あるものは日々の賣買に浮沈をるが故に離れて時の價格を定むると離きのみならず新相場所は舊相場所の株を時價を以て買潰すとの風聞、例の如く世間に傳播をるに於ては株主等れ忽ち得意の顏色を開き只管その時價を騰貴せしむるの工風を運らして逆も相談の居合はざる事あらん然ふを則ち舊相場所れ株式は暴と以て之と破壞す可らず又好意と以て其株主の言ふがまゝに買潰す可らず其處分甚だ難れに似たれども凡ろ政事の機密は此邊ふ働と爲す可き者にして疾雷耳を掩ふに暇あらず政府の當局者一個人の獨斷と以て瞬間に事を決す可きのみ例へぞ當局者は從來の相場所の有樣を見て果して新相場所の設立を必要ありとする歟、獨り之を方寸に決し即時に株式取引所と米商會所とに命じて其株式の賣買を禁じ其日の相場を以て株の價格と爲し然る後に新相場所の設立に關して評議も可あり諮問も可あり徐々に謀を爲して其株を買取るは賣者買者共に價の事に就ては一點の不平ある可らず是即ち政機の貴き所以にして其効用の著しき者あり事の大小輕重と其性質は異なれども爰に一例を示さんに千八百七十五年英國の大宰相ヂスラリー公がスイス運河の株式を買取りたるが如きは政治機密の龜鑑とも云ふ可きものあり當時運河營業の惣株數四十萬株にして其内十一萬七千株は埃及政府の所有に屬し同政府財政れ困難よりして此株式を賣却するに内決したる趣在埃及英國領事の耳に聞へければ領事は即刻暗號電信を以て本國宰相へ報じたるに宰相は廿四時間に決答を與へ二千萬圓を以て右の十一萬七千株を英政府に買取りたり蓋まて英政府の慣行に依れば斯る大事件は必ず國會の議に附せ可き筈なれども其事あきのみか宰相は他の内閣員にも語らず天地の間唯一身の方寸に之を斷行しふりとは流石に大英宰相の名に愧ざるものと云ふ可し若しも此時に當り宰相が領事の電信に接し之を人に諮問し又相談をるが如き緩慢手段に出たることもあらんには政機瞬間に千里を走て歐洲の政事上商賣上に大變動を起し事れ未だ成らずして先づ害毒と社會に流し内外の嘲を取りしまとあらんのみ左れば前にも云へる如く日本の相場所の事とスイス運河の事とは其輕重固より比較にもあらざる次第あれども政機の大切なるに至ては輕重の別ある可きふ非ざれど我輩が日本國民の分と之て政府の當局者に對し「ヂスラリー」公の機密果斷と望むも敢て分外には非ざる可し然るに不幸にして今度共同相場會所新設の一條は舊相場所の株式に就き未だ何等の處分をも爲さゞる其前に浮世の浮説は千差萬別隨て出でゝ隨て人を驚かし今日に至りては何れが實説にして何れが虛あるや虛實も分けぬ暗黑の中に投機商の狂奔する有樣にして新設の事は進むにも難く退くにも易からず進退共に唯商賣上の安寧に不利なる可きのみなれば兼て我輩も同感同説なる相場所の改革と一時に施行せば甚だ殘念あるるに似たれども今の場合に當りては止むを得ず一段落を切上げて鎭靜の方略を施その外に好手段なきふとあらん斯くて一と先づ商人等の安心を固くして其平生に歸らしめ共同相場會所新設など云はずして別に新案と立る歟又は幾年幾月の後に至りて商賣社會の人氣と觀察しいよいよ新設の要を見定めて圓滑に行はる可き機會を待ならば其機を空ふせずして斷して行ひ所の廉立を瞬間に決するが如きも政機の華實を全ふするものと云ふ可し都て大小の人事と處をるに成敗れ其出發の機に在るを常とも若しも其發機の不充分あるを見たらば暫時を忍耐まて再發を試ぞるに若くはあし俗に所謂氣をぬくものにして經世家の竊かに重んずる所のものあきば我輩も今度の一條に付ては氣をぬかんことを欲するものなり

雜報

○古文書の謄寫　内閣修史局にては山城大和兩國を始めとし全國の神社佛閣に於て古來保存する古文書類は總て修史材料に供すべきもの少なからざるに付一切謄寫の上備へ置く筈にて先頃より編輯官を各地へ派遣し頻に抜萃謄寫せまむる由なるが已に謄寫濟と爲り同局に在る者も百數十冊もありといふ

○大坂宿毛間の航海　大坂商船會社にては從來郵船會社と特約の廉ありて高知縣下へは汽船の航海と爲さず郵船會社の汽船駿河丸浪花丸の二艘が大坂高知間の航海を爲し來りしが今度兩社熟談の上商船會社にて土佐國宿毛港に代理店を設け更に同社の汽船第二三光丸新和歌浦丸の二船を以て定期航海を開きたるよし

○東西の風景自ら異なり　あの頃米國ニューヨークの「ポーキープシー」にある人より社友への書状に當夏休業中は當地近傍にある處々の風景を見物せし内サヨーツ湖は遊覽中格別好景の地にて湖水は蒼澄として青山四邊を圍みたる有樣何となく函根の湖水に髣髴として轉ろに昔遊を思ひ出し候概して申さば我國山水の趣きは當國のロッキー山又はナイヤガラ河畔の如き廣大雄偉なる壯觀にも乏しく候得共閑雅幽邃の佳致に富めり風景の點々申さば遙か米國に立優りて相見へ候仮令ば當國の樹木あどは總じて唯眞直に順序よく生長するのみにて何の趣きもあけれど日本の樹木は思ふ儘に曲折して枝々交叉したるの樣自ら文人墨客の目を喜ばするが如きも御承知の如く當國の人民は一般に實利實益を尊ぶ國柄あれば無情の樹木も自らその風に化し最良の材木となり人民の用に供をるものならんと一笑致候

○兇賊未だ縛に就かぞ　去月三十日付和歌山通信に曰く此程東京二三の新聞に過般當地第四十三國立銀行に押入り宿直員五名と殺害して逃走しふる兇賊は一人が當地に於て縛に就きたる由を記し中にも某新聞の如きは「右の賊は磯部門十郎（紋十郎か）とて頗ぶる擊劒の名人にして且つ代言をも業と爲るもれ、よし然るに右銀行設立の發起者にて目下一等株主と成て居るは舊紀州家の家老にして勢州松坂の城代を勤めし三浦長門守と云る人にて當時は三浦權五郎と改名し同所南龍神社の祠官と成り居れるが此人先年陸軍少佐何某の舍弟を聟養子にしふる處ろ此養子は放蕩者なるを右門十郎が奇貨として種々の曲事を煽動こみ養家の家産を傾ふけしのみあらず遂ふ第四十三國立銀行へも入込せて同銀行と傾ふけんと謀りふるが此事權五郎が聞處となり養子を離縁し門十郎の出入を堅く禁じたるゆゑ兩人は之を恨み居たれば養子も右の強盜仲間に加つて居たあらんと北筋にて見認を附られ門十郎を調べられふるど同人は奈まして之を白狀せず云々」なぞ、記せしが元來三浦權五郎といへる人は舊紀州藩の第一の家老なれば勢州奉行杯一小局部の支配役たりしとは固より之なく尤も和歌山の銀行は專ら士族の株にて成立しも同氏の株は百五十位にて第一れ株主にはあらず第一株主は今回頭取とありし縣下日高郡の豪商橋本治助（通稱橋本太）久保田三郎の二氏あり又三浦氏の養子たりし人は中川陸軍少佐の實弟中川三七氏にて氏は府縣會創始の比副議長に撰まれしも受けず當時銀行創立の際にて同氏頭取とあり大に盡力したる末愛宕直三郎氏に讓り其後共同運輸會社の起るに際し株券募集に奔走し一旦同社員となり夫より山東直砥愛宕直三郎等の諸氏と大坂ふて荷爲替丸紀組てふものと設立し今當地方に在て公益になるべき事柄ふ盡力し現に今回銀行役員を殘らず交代せしめ前の橋本氏を頭取に久保田氏を支配人とあし銀行れ隆盛を計りたるも全く中川氏の與て力ある程にて強盜嫌疑杯とは思ひも寄らぬ話にして誰も信ずるものあるべく思はれず且や彼の磯部敬十郎なる人も元は成程三浦家の家來にてありしも廢藩後は一般の家來と共に離れて別立せしものにて中川氏養子の時と年月と殊にするあれバ平素の交際もれろか面識もあき程の間柄あり殊に磯部とても拘引尋問等受けしことは一度もあく全く無根の妄言なり強盜の事は今以て分明あらずと雖ども風説の重あるもの本因きば是は中々兼入の所爲でなく或は大坂大和邊より入込みしものならんと其筋にても見込み居るよし云々

○自轉車の周遊者　米人スチープンス氏が自轉車にて支那内地を旅行し日本へも來るよしは先頃の紙上に記載せしが近着の上海新聞に載せたる廣東通信を見るに同氏は去月十三日九江へ向け廣東と出發せしが同地に於ても氏に忠告するに内地は道路旅宿の粗惡あるを以てしたれども氏は少しも之が爲め勇氣を挫かず假令へ何程道路と惡しくとも一旦企てたることあれば中止をべきに非ず殊に歐洲以來長の難路に慣れ居れば敢て憂

ふるに足らず
質より見れば
去と申すは氏
人の通辨或は
入用れ品を要
いへり左れば
けれども唯一
るゝものは内
如何となれぞ
も充分意中と
民は外國人す
と云ふものは
平生信仰をる
持ち丈け六十
疑ひ去りとて
のは火車にも
て神か人かと
を加へんとも
持し居れば官
もせよ無難に

○電氣航海の好
行ひ十分の好
等の小舟を進
りて發明者の
中に裝置すれ
だ時に之を變
と用ゆるが如
たる舟は堅卅
りたるものよ
は發明者の一
十時にドーヴ
ライスに達し
着せり此間往
里の平均あり
の試驗の目
寂にして例へ
りしらば船は
ず眠未だ發さ
しドーヴァー
は一度も交換
時間十四里の
り由と近着

○大坂通信
の徴兵人員は
四人徵集猶豫
十七人異動先
縣より寄留百
萬二千六百八
監獄署に拘留
等軍曹あり
る彼の國事犯
頗る鄭重に取
を中國地方に
りと云ふ同氏
氏が拘留せら
某を大坂へ護
へ出願せしみ
物等と渡して

○諸道具の
二割方引上
の先行れ左
するを促受
景氣を顯はす
の賣物出廻り